

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和2年10月22日(2020.10.22)

【公開番号】特開2019-17883(P2019-17883A)

【公開日】平成31年2月7日(2019.2.7)

【年通号数】公開・登録公報2019-005

【出願番号】特願2017-141494(P2017-141494)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 3 4

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和2年9月10日(2020.9.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技が可能な遊技機であって、  
 発光手段と、  
 前記発光手段からの光が端面から入射されることにより演出表示を行うことが可能な導光板と、  
 前記発光手段が取付けられる取付部材と、  
前記導光板を一方の面側と他方の面側から挟み込んで取付位置に保持する保持体と、  
 を備え、  
前記導光板が前記保持体により保持された状態において、前記導光板と前記保持体との間に隙間を有し、

前記取付部材は、移動可能に設けられ、前記発光手段よりも前記導光板側に突出する突出部を有し、

前記突出部は、前記取付部材が前記導光板の端面と前記発光手段とが対向する所定位置において前記導光板の端面と対向する

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 7】

前記課題を解決するために、手段 A の遊技機は、  
遊技が可能な遊技機であって、  
発光手段と、  
前記発光手段からの光が端面から入射されることにより演出表示を行うことが可能な導光板と、

前記発光手段が取付けられる取付部材と、

前記導光板を一方の面側と他方の面側から挟み込んで取付位置に保持する保持体と、

を備え、

前記導光板が前記保持体により保持された状態において、前記導光板と前記保持体との間に隙間を有し、

前記取付部材は、移動可能に設けられ、前記発光手段よりも前記導光板側に突出する突出部を有し、

前記突出部は、前記取付部材が前記導光板の端面と前記発光手段とが対向する所定位置において前記導光板の端面と対向する

ことを特徴としている。

前記課題を解決するために、手段 1 の遊技機は、

遊技が可能な遊技機（例えば、パチンコ遊技機 1）であって、

発光手段（例えば、導光板 L E D 6 0 7）と、

前記発光手段からの光が端面（例えば、上端面 5 1 1 a）から入射されることにより演出表示を行うことが可能な導光板（例えば、第 1 導光板 5 1 1）と、

前記発光手段が取付けられる取付部材（例えば、取付部材 6 0 2）と、

を備え、

前記取付部材は、移動可能に設けられ（例えば、取付部材 6 0 2 は、第 1 位置、第 2 位置、第 3 位置の間で左右方向に移動可能である。図 1 3 及び図 1 4 参照）、前記発光手段よりも前記導光板側に突出する突出部（例えば、リブ 6 1 2 L（リブ 6 1 2 R）は、導光板 L E D 6 0 7 よりも第 1 導光板 5 1 1 側に突出する突出部として機能している。図 1 0 参照）を有し、

前記突出部は、前記取付部材が前記導光板の端面と前記発光手段とが対向する所定位置において前記導光板の端面と対向する（例えば、導光板 L E D 6 0 7 が第 1 導光板 5 1 1 の上端面 5 1 1 a に対向する所定位置において、リブ 6 1 2 L、6 1 2 R が第 1 導光板 5 1 1 の上端面 5 1 1 a と対向する。図 1 0 ~ 図 1 2、図 1 4 参照）。

ことを特徴としている。

この特徴によれば、発光手段が導光板の端面に接触して破損することを防止できる。

【**手続補正 3**】

【**補正対象書類名**】明細書

【**補正対象項目名**】0 0 0 8

【**補正方法**】変更

【**補正の内容**】

【0 0 0 8】

手段 2 の遊技機は、手段 1 に記載の遊技機であって、

前記取付部材は、前記導光板の端面に沿って移動可能である（例えば、取付部材 6 0 2 が第 1 導光板 5 1 1 の上端面 5 1 1 a に沿って移動する移動範囲において、導光板 L E D 6 0 7 は、常に第 1 導光板 5 1 1 の上端面 5 1 1 a の上方に配置されている。図 1 3 参照）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、演出効果を高めることができる。

【**手続補正 4**】

【**補正対象書類名**】明細書

【**補正対象項目名**】0 0 0 9

【**補正方法**】変更

【**補正の内容**】

【0 0 0 9】

手段 3 の遊技機は、手段 1 または 2 に記載の遊技機であって、

前記導光板は、立体演出表示が可能である（例えば、第 1 導光板 5 1 1 の背面には、凹凸状態（粗面）の複数の反射部が設けられており、これら反射部は、前面側の空間上の予め定められた前後左右上下複数の位置に光を収束させるようになっており、光が収束された収束点や収束線の集まりにより空間上に立体像 Z 1、Z 2、Z 3 が形成されるようにな

っている。図 20 参照)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、演出効果を高めることができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

手段 4 の遊技機は、手段 1 ～ 3 のいずれかに記載の遊技機であって、

前記取付部材が移動中に前記発光手段を複数色にて発光可能である（例えば、導光板 LED 607 は、赤（R）・緑（G）・青（B）の発光素子を有し、7 色にて発光可能なフルカラー LED からなり、演出制御用 CPU 120 は、取付部材 602 を左右方向（第 1 位置～第 3 位置）に移動させながら導光板 LED 607 の発光する色を変更する制御を行うことができる。）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、演出効果を高めることができる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

手段 5 の遊技機は、手段 1 ～ 4 のいずれかに記載の遊技機であって、

前記取付部材が移動中に前記発光手段を複数輝度にて発光可能である（例えば、導光板 LED 607 は、複数の輝度で発光可能に構成されており、演出制御用 CPU 120 は、取付部材 602 を左右方向（第 1 位置～第 3 位置）に移動させながら導光板 LED 607 の発光する輝度も変更する制御を行うことができる。）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、演出効果を高めることができる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0012】

手段 6 の遊技機は、手段 1 ～ 5 のいずれかに記載の遊技機であって、

所定条件の成立に応じて遊技者にとって有利な有利状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能であり、

前記取付部材と前記発光手段とは、遊技者から視認困難に設けられ（例えば、取付部材 602 及び導光板 LED 607 は、前保持部材 503 の上辺部 503H の背面側に配設されており、遊技者から視認困難となっている。）、

前記所定位置（例えば、導光板 LED 607 が第 1 導光板 511 の上端面 511a に対向する位置）は、第 1 位置（例えば、第 1 位置）と該第 1 位置とは異なる第 2 位置（例えば、第 2 位置及び第 3 位置）を含み、

前記第 1 位置と前記第 2 位置のいずれにあるときに前記発光手段が発光するかに応じて有利度が異なる（例えば、取付部材 602 の移動が第 1 位置で停止した場合（立体像 Z1 が表示された場合）が最も大当りの期待度が低く、取付部材 602 の移動が第 2 位置で停止した場合（立体像 Z2 が表示された場合）が取付部材 602 の移動が第 1 位置で停止した場合よりも期待度が高く、取付部材 602 の移動が第 3 位置で停止した場合（立体像 Z

3が表示された場合)が最も大当りの期待度が高く設定されているため、遊技者に第1位置、第2位置、第3位置のいずれの位置で取付部材602が停止するか(立体像Z1, Z2, Z3のいずれが表示されるか)遊技者に興味を持たせることができる。図20参照)ことを特徴としている。

この特徴によれば、演出効果を高めることができる。

【**手続補正8**】

【**補正対象書類名**】明細書

【**補正対象項目名**】0013

【**補正方法**】変更

【**補正の内容**】

【**0013**】

手段7の遊技機は、手段1～6のいずれかに記載の遊技機であって、

前記導光板が取付けられる被取付部(例えば、前保持部材503, 後保持部材505)を備え、

前記被取付部は、前記発光手段に対する前記導光板の位置決め用のボスとして、第1位置決め用ボス(例えば、第1位置決め用ボス551)と第2位置決め用ボス(例えば、第2位置決め用ボス552)とを含む複数の位置決め用ボスを有し、

前記導光板は、前記第1位置決め用ボスが挿入可能な第1挿入部(例えば、第1孔部511A)と、前記第2位置決め用ボスが挿入可能な第2挿入部(例えば、第2孔部511B)とを含む複数の挿入部を有し、

前記第2位置決め用ボスと前記第2挿入部とは、前記導光板を前記被取付部に取付けた状態において、前記第2位置決め用ボスと前記第2挿入部との間に生じる隙間(例えば、隙間S2)が前記第1位置決め用ボスと前記第1挿入部との間に生じる隙間(例えば、隙間S1)よりも大きく、前記端面(例えば、上端面511a)に平行または略平行な特定方向への前記導光板の移動を許容する一方で該特定方向以外の方向への前記導光板の移動を規制するように設けられる(図19参照)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、導光板の熱膨張に対し好適に対応できる。

【**手続補正9**】

【**補正対象書類名**】明細書

【**補正対象項目名**】0014

【**補正方法**】変更

【**補正の内容**】

【**0014**】

手段8の遊技機は、手段1～7のいずれかに記載の遊技機であって、

前記導光板を取付位置に保持するための保持体(例えば、前保持部材503, 後保持部材505)を備え、

前記保持体は、前記導光板を一面(例えば、前面)側と他面(例えば、背面)側とから挟み込むように前記取付位置に保持可能であり、

前記導光板を前記保持体により保持した状態において、前記導光板と前記保持体との間に隙間(例えば、隙間S20)が設けられる(図10～図12、図18参照)

ことを特徴としている。

この特徴によれば、導光板の熱膨張に対し好適に対応できる。

【**手続補正10**】

【**補正対象書類名**】明細書

【**補正対象項目名**】0015

【**補正方法**】変更

【**補正の内容**】

【**0015**】

手段9の遊技機は、手段1～8のいずれかに記載の遊技機であって、

前記導光板を取付位置に保持するための保持体（例えば、前保持部材５０３，後保持部材５０５）を備え、

前記保持体は、

前記導光板を一面（例えば、前面）側と他面（例えば、背面）側とから挟み込むように前記取付位置に保持可能であり、

前記導光板を保持した状態において該導光板と対向する位置に凹凸部（例えば、凹凸部５４９）が設けられ、

前記凹凸部は、前記導光板を前記保持体により保持した状態において、前記導光板に形成されたエジャクタピン跡（例えば、エジャクタピン跡６５０）と対向しない位置に配置されている（図２２参照）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、導光板の熱膨張に対し好適に対応できる。

【手続補正１１】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１６】

手段１０の遊技機は、手段１～９のいずれかに記載の遊技機であって、

前記発光手段（例えば、導光板ＬＥＤ５１７）から入射された光を前記導光板に向けて出射する導光部材（例えば、第１集光レンズ５１９）と、

前記導光部材が取付けられる被取付部（例えば、ＬＥＤ基板５１８の背面）と、  
を備え、

前記導光部材には、前記被取付部に取り付けられた状態において該被取付部に設けられた挿入部（例えば、位置決め孔５９５Ａ）に挿入可能な位置決め用ボス（例えば、集光レンズ位置決め用ボス５９３Ｆ）が突出して設けられている（図２１参照）

ことを特徴としている。

この特徴によれば、位置決め用ボスを挿入部に挿入することで導光部材の取付位置が決定されるため、導光部材を好適に取付けることができる。